

令和 2 年 7 月 1 日現在

機関番号：32604

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02034

研究課題名（和文）旧英領カリブの多文化共生社会に関する実証的研究：白人性のオーラルヒストリー分析

研究課題名（英文）Whiteness Analysed: An Empirical Study of the Multicultural Societies in the Commonwealth Caribbean

研究代表者

伊藤 みちる（ITO, Michiru）

大妻女子大学・国際センター・講師

研究者番号：70768019

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では旧英領カリブ海地域のトリニダード・バルバドス・ジャマイカの3島におけるヨーロッパ系市民から聞き取ったオーラルヒストリーの語りから以下を明らかにした。3島に共通して、多くは社会経済特権を持つエリート層に属している、バルバドスは異人種間結婚・混血児に対し嫌悪を表さない、トリニダードは白人としての純血性を主張するが、バルバドスとジャマイカは身体的特徴が完全に白人であっても混血である事実を躊躇なく公表する、若年層は他社会構成員との同化を試み、白人優越性や人種差別を否定する傾向にあるが、日常的な社会特権に恵まれていることは気づいており、意図せず悪用していることには気づいている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で収集した、旧英領カリブのヨーロッパ系市民が多文化社会で少数派としてどのような経験を通じてアイデンティティを構築してきたのかという個人の語りは、未だ系統的な調査研究が僅少であるカリブ海地域の白人性研究に革新的な前進をもたらす貴重なデータである。同時に、白人性を構成する歴史・ジェンダー・エスニシティ・クレオール化などの複合的学術分野に貢献することができた。本研究は、異なるものへの優位意識や差別意識の構造を理解しようとする点において、特に異文化への寛容という文脈で、差別や紛争のない多文化共生社会を実現するために、どの要素が役立つのか、グローバル化が進む我が国に新たな方向性を示すことができる。

研究成果の概要（英文）：This research seeks to produce knowledge of identity as European-descended white minority in the Caribbean islands of Trinidad, Barbados and Jamaica. Based on the interviews to participants who are subjectively and objectively white, as a means of creating oral history, major findings are as follows:

1. many of the whites of the three islands enjoy socioeconomic privileges and elite status; 2. In Barbados, they do not show their disagreement towards interracial marriage or interracial children; 3. In Trinidad, they are proud of being white which is superior form of racial identity, and insist on their racial purity as white. On contrary, in Barbados and Jamaica, they have weak attachment to white hegemony, and recognise their interracial family background; 4. The younger generations tend to deny the existence of white privilege and racism in order to assimilate into the majority of the society, which is non-white, yet admit they take advantage of whiteness in everyday life.

研究分野：社会学

キーワード：白人性 カリブ オーラルヒストリー トリニダード バルバドス ジャマイカ アイデンティティ

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) カリブ海地域の島々は、ヨーロッパ諸国の間で 領有権が何度も移動した歴史を持ち、それに伴って社会構造が幾度も変化してきたため、それぞれ 人種・民族の人口構成や使用言語も異なる。したがってカリブ海地域を一体として捉えることは困難である。しかし旧英領カリブ地域において共通しているのは、多民族が各々の文化を保ちながら、平和的に共生している非常に稀な地域であるということである。

(2) 多文化共生社会が実現している旧英領カリブ海地域の島々においては、アフリカ系やインド系に関する研究は盛んであるが、ヨーロッパ系に関する研究は未だ僅少である。彼らは植民地時代より、社会少数派であるものの社会経済的強者として大きな存在感を保ってきた。そのようなヨーロッパ系のアイデンティティである白人性の特徴と歴史・社会的な構築過程は島ごとに異なると予想された。そこで、旧英領カリブ地域でヨーロッパ系社会が比較的大きいトリニダードとバルバドス、そしてアフリカ系文化が圧倒的に優位であるジャマイカの白人性に焦点を当てた。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、旧英領カリブ3国(トリニダード・バルバドス・ジャマイカ)のヨーロッパ系市民からオーラルヒストリー、すなわち個人の経験の「語り」を聞き取り、彼らの白人としてのアイデンティティ「白人性」の違いやその構築過程について3国で比較するものである。具体的には、どのような事象のどのような影響の結果、彼らの白人性が構築されているのかを明らかにすることである。つまり旧英領カリブ3国の白人性とその構築過程を、例えば、社会特権や逆人種差別などの個人の経験の語りから比較分析することで、異なるものへの優位意識や差別意識の構造を理解しようとする。

(2) さらに目的は、白人性という切り口で旧英領カリブ3国の社会を俯瞰しながら、差別や紛争のない多文化共生社会を実現するための普遍的構造や要素を実証的に抽出することである。それらがグローバル社会における異文化への寛容という文脈でどのように理解できるのか、実証的な成果が得られれば、グローバル化が進む我が国のような社会に対し、新たな方向性を示すことができると期待されるからである。

3. 研究の方法

(1) 現地調査(トリニダード・バルバドス・ジャマイカ)

ヨーロッパ系市民の白人性に関する個人の経験を質的調査から具体的に探るため、18歳以上のヨーロッパ系市民を対象にオーラルヒストリー聞き取り調査を行った。主な質問テーマは、家族史、結婚、異人種との交流経験、人種差別をした/された経験、異人種への嫌悪/恐怖などについてである。

(2) 史資料収集

先行研究に引き続き、カリブ海地域の白人性の特異性を文献から全体的に把握した。非ヨーロッパ系市民に関する国外の歴史研究から、対称的存在としてのヨーロッパ系市民の姿の解明を試みた。実際に生存するヨーロッパ系市民の経験や記憶だけでは把握しにくい歴史的・社会的背景の深い部分も、調査参加者や古文書館、西インド諸島大学図書館や会員制クラブなどが所有する家系図・手紙・写真などの史資料テキストからの事例と照会し明らかにした。

(3) (1)上記3国の聞き取り調査データを文字に起こし、間やジェスチャーなども分析対象とした。主観的な個人の語りから得られる情報と史資料テキストから見える史実と客観的に照合し検証した。上記3国で構築された白人性に関し、共通点や独特な点、その社会での役割について明らかにし、白人性が構築されてきた過程に何があるのか調べた。非ヨーロッパ系市民との関係や各国のどのような複合的な社会要素がどう影響を与えるのか、個人の語りを検証した。

4. 研究成果

(1) 蓄積が少ないカリブ海地域のヨーロッパ系の白人性構築過程をめぐるオーラルヒストリーの「語り」を累計53名分第一次データとして収集することができた。

(2) 人口の0.02%を占めるトリニダードの白人としての純血性を誇るフランス系は、植民地時代の白人優越主義を継承し、自らの優位性を主張した。トリニダードの人口の0.6%を占めるイギリス系など他ヨーロッパ系市民は、無条件で社会経済特権を持ちエリート層に属す。老年層は特に白さを保つことに過敏であるが、若年層は白人性に消極的で異人種間結婚が増加している。

(3) 人口の2.7%を占めるバルバドスのヨーロッパ系はエリート層と最貧困層に属す。これはコロニアル時代に主にアイルランドから白人奴隷が導入された名残であると推測されるが、本研究でははっきりしなかった。身体的特徴は完全に白人であり、自己認識も白人ではあるが、混血であることを明言する事例が多い。白人社会経済特権は認識するが固執しない。

(4) 人口の0.16%を占めるジャマイカのヨーロッパ系市民のうち、社会特権を持つエリート層に属す者はアフリカ系の身体的特徴を強く持たないイギリス系の混血の白人が多い。しかし白人としての純血性を主張する貧困層に属すドイツなどからの労働移民の子孫も存在する。

(5) 多くの場合、植民地時代を経験したことのない若年層も、植民地時代から続く白人優越性や社会経済特権を当然のものとして受け継いでできていることが明らかになった。そして多くのヨーロッパ系が、非ヨーロッパ系からヨーロッパ系であることを理由に、例えば、奴隷貿易・奴

隷制への罪の意識を強制的に認識させられたり、アフリカ系やインド系との身体的特徴の違いを指摘され陰湿に暴力や嫌がらせを受けたり、逆人種差別を受けていることが判明した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 伊藤みちる	4. 巻 28
2. 論文標題 旧英領カリブ海地域における白人性の多様性 - パルバドスとトリニダードの比較 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人間生活文化研究	6. 最初と最後の頁 660-695
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 伊藤みちる	4. 巻 28
2. 論文標題 カリブ社会のグローバル化とグローカル化 - トリニダードのカーニバルを事例に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人間生活文化研究	6. 最初と最後の頁 721-730
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ito, Michiru	4. 巻 29
2. 論文標題 Questioning Whiteness: "Who is white?" A case study of Barbados and Trinidad	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Human Culture Studies	6. 最初と最後の頁 129-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ito, Michiru	4. 巻 113
2. 論文標題 White Identity in the Caribbean	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Research Outreach	6. 最初と最後の頁 102-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 伊藤みちる	4. 巻 30
2. 論文標題 白人であることへの気づき ヨーロッパ系トリニダード人の自己認識に関する談話分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間生活文化研究	6. 最初と最後の頁 416-437
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Ito, Michiru
2. 発表標題 “Questioning whiteness: ‘Who is white?’ in Barbados and Trinidad”
3. 学会等名 International Conference on Caribbean Literature (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ito, Michiru
2. 発表標題 Construction and Reproduction of Whiteness in Barbados
3. 学会等名 Barbados Historians Association (招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 伊藤みちる (国本伊代編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 4 (346)
3. 書名 「第11章 ヨーロッパからの労働移民—ブアー・ホワイトの導入」『カリブ海世界を知るための70章』	

1．著者名 伊藤みちる（国本伊代編）	4．発行年 2017年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 4 (346)
3．書名 「第26章 環カリブ海地域のシリア・レバノン系社会」『カリブ海世界を知るための70章』	

1．著者名 伊藤みちる（国本伊代編）	4．発行年 2017年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 4 (346)
3．書名 「第27章 環カリブ海地域のヨーロッパ系白人」『カリブ海世界を知るための70章』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
--	---------------------------	-----------------------	----